

「南から来た火山の贈りもの」伊豆半島ジオパーク構想と取組み

石井 千春^{1*}
ISHII, Chiharu^{1*}

¹伊豆半島ジオパーク推進協議会事務局

フィリピン海プレートの北端に位置する伊豆半島は、その全体がかつては南洋に浮かぶ火山島（一部海底火山）であった。その後のプレートの北進によって本州に衝突し、半島の形になったのは60万年前という地質学的にはごく最近の出来事である。プレート運動は今も伊豆の大地を本州に押し込み続けている。さらに、太平洋プレート沈み込み帯の火山フロント付近に位置する伊豆半島は、活発な火山活動が続く場所でもある。

こうした地学的背景をもつ伊豆半島は、同種の例を見ない地球上の特異点とも言える。衝突前の海底火山、衝突後の陸上火山、衝突に伴う地殻変動は地学的な多様性をもたらし、伊豆半島各地の豊かな自然景観や文化を育んでいる。

伊豆半島ジオパーク構想のテーマは、伊豆半島の成り立ちと地学的な現状から「南から来た火山の贈りもの」とし、その中に5つのサブテーマ、1.本州に衝突した南洋の火山島、2.海底火山群としてのルーツ、3.陸化後に並び立つ大型火山群、4.生きている伊豆の大地、5.変動する大地とともに生きてきた人々の知恵と文化、を設定した。

2011年3月末、伊豆地域13市町と関連団体により伊豆半島ジオパーク推進協議会が設立され、この協議会が中心となり伊豆半島ジオパークの実現に向けた取組を進めている。

協議会が主催・共催・講師派遣した講座やジオツアーは、小学校低学年から高齢者まで様々な年齢層を対象に40回を数え、現在までの参加者はのべ3000名以上（NPOやガイド団体、観光協会等が行ったものを含めると96回約4300名）である。関連して、伊豆半島のジオな風景を対象としたフォトコンテストやジオフォトツアー、火山実験教室等も行った。

これらの取組を支える人材育成として、ガイド養成講座を行い51名が参加、さらに講座参加者を対象とした実地試験を経て31名をジオガイドに認定した。これらガイドを中心として、ツアー企画や商品開発、地層剥ぎ取り保存、ジオサイト清掃活動などの取組が始まっている。

教育分野では、伊豆総合高校が中心となりジオパーク構想を取り入れた学習活動を展開。生徒が企画運営するジオツアー（10回）や小学校への出前授業（4回）に取り組むとともに、伊豆半島内の他高校と連携した学習会等を行っている。

会員市町では、ジオサイトへの解説看板設置を開始し、現在までに2市12か所に解説看板が設置されている。